

(設立趣旨文)

「山が動く日<sup>きた</sup>来る」、1911年雑誌『青鞥』創刊号に詩人の与謝野晶子が寄せた文の出だしの言葉です。大正デモクラシーの風潮のもと、女性の地位向上をめざす運動は活発になりました。昭和に入ってから軍国主義の嵐の前には、そのわずかな命はかき消されてしまいますが、歴史に足跡を残すものとなりました。

原発安全神話のもとで生活してきた私たちには、2011年3月11日以降の状況は、まさに「山が動く日<sup>きた</sup>来る」と、同じ思いを抱かせるものでありました。

東日本大震災を契機とする東京電力福島第一原発の事故とその後の放射線被曝は、原発安全神話、御用科学者・政治家の言説、大手メディアの偏向報道など、諸々のものを吹き飛ばし、人びとを市民運動に駆り立てました。サウンド・デモ、仮装デモ、官邸前での金曜日行動など、今までにない市民運動が創造され、一度も足を運んだことのない人も参加し声をあげました。その様は、Facebook・twitter・YouTubeなど新たなSNSによって拡散されました。しかし、1990年代以降のグローバルリズム・ネオリベリズムの進展により、日本国内の庶民の生活は厳しい状況が続いています。市民運動の継続には心のエネルギーが必要だが、なかなか変わらない政治・社会の状況は、人びとの気持ちを後退させてもいます。

とはいえ、市民運動は、全国各地で根気よく継続されています。3.11以前とは確実に異なる形で、「原発をなくす」ための行動は展開されています。訴訟・裁判、抗議活動、講演会・集会、テントの設営、NPO法人の設立、映画・ドキュメンタリーの制作、そして政治活動など多様性に富んでいます。

今回、このホームページで集めたのは、そうした日本全国、各地の様々な市民の活動・運動のホームページやFacebookです。

「原発をなくす」、同じ思いで運動に関わりながら、現在の市民運動は「バラバラに活動している」、「テーマが細分化している」、「情報過多でわかりづらい」、「首都圏中心の情報に偏りがちである」などの問題点を抱えているように思われます。そんな市民運動が、再び「原発安全神話」をつくろうとしている強

力な勢力に対抗していくためには、ネットワークの形成が不可欠でしょう。私たち【原発なくす蔵】は、その一助になることを願って、ここ九州の地より産声をあげ、全国に発信を致します。

取りあげたリンク先は、現状把握できたものを掲載しています。「掲載されていないぞ、載せてほしい」大歓迎です。どんどん御投稿・御紹介ください。一方で、すでに活動していない団体のもものも含まれるかもしれません。そのときは、ご容赦ください。また、御意見・御批判や投稿文などありましたら、お寄せください。お待ちしております。「山を動かし続けるために」。

(共同世話人：青柳行信・棚次奎介・片山純子)